

月刊びゃっきープレス

byacky press

2007

9 月 号

毎月初回ライブ日発行

発 行 (謝)びゃっきーライブ連盟  
http://www.satram.jp/byacky/  
byacky@satram.jp

配 布 びゃっきーご本人かライブハウスの人

無料配布

↑あたりまえ



役に立たない偏重サイト  
情報がグレードダウン!!

アクセス不要

http://www.satram.jp/

info@satram.jp

# 課題 緊張 研究



▲いかにも緊張とは無縁そうな連中

## あがり症を克服せよ

最近一曲目に「60億分の1」を歌うことが多いびゃっきーだが、家に帰って録音を聴いてみると、緊張のため歌声が震えていて安定していないことが非常に多い。曲と歌詞がよくできているため、アンケートでは多く丸がつくものの、これでは良さが半減である。なんとか一曲目から安定した歌声で届けることはできないか、そんな希望を叶えるべく、あがり症について研究してみることにした。

## 歌声が震えないように



▲手作りケーキでほっと一息とか

びゃっきーのあがり症は、他のミュージシャンが対抗できないほどに強力で、コントロールの利かないピアノの音が予測もつかない音程で発生する。いきなりお客さんの心をグッと掴みたい一心で、「60億分の1」を一曲目を持ってきているのだが、緊張のため逆効果になっている可能性がある。「恨みノート」か何かで一気にパーストさせてしまうというのかもしれない。いつもそればかりやっているとわけていっても、いや、どんな曲が一目に來ても大丈夫なようにしておきたい。そこで、あがり症克服の研究を行うことにした。

「民間療法1」「人という字を手のひらに書いて飲む」  
誰が言い始めたのか、「人を飲む」それは酒か？緊張よりもへべれけが心配。これであがり症が治ったという話を聞かないのに最もポピュラー。変り種としては「鸚鵡」と8回書いて飲むというものもあるらしい。こちらは「鸚鵡」という漢字がわからず、目的を達し損ねて本番に向かわねばならない危険あり。

「民間療法2」「観客をかぼちやだと思え」  
これから歌を聴いてもらおうというのに、ずいぶん失礼な話である。

「真実を伝えていくように全く意味のないアドバイス1」「慣れが肝心」  
3年間もやってきているのに一向に慣れる気配なし。最近は一ヶ月に4〜5本のライブをこなしているにも関わらず慣れる気配なし。

「真実を伝えていくように全く意味のないアドバイス2」「自信を持つ」  
あがらないことに対して自信がない場合に無効。あがらない自信があれば、既にあがっていない。

「真実を伝えていくように全く意味のないアドバイス3」「開きなおい」  
開き直ったあがり症が完成するだけ。

「なんか危険な対策1」「薬に頼る」  
鎮静作用のある薬を飲むという人もいろいろいるのだが、何かドーピングっぽく、副作用も心配である。

「もっともらしい対策1」「伊藤家の食卓に頼る」  
プライベートが許さ

「もっともらしい対策2」「ツボを押す」  
間違えて経絡秘孔の一つをついてしまうようなことがあったら、緊張どころではすまない。

「もっともらしい対策3」  
「60億分の1」を歌うときにすればよいのだ。そうすれば、「60億分の1」を歌ってあげれば緊張しないですむ。善は急げというところで、早速タイムラックスタイムに歌っておくことにしよう。♪60億分の1でいいから、あ、なんか緊張してきた。(びゃっきー)